

当館の免疫抑制剤投与患者における CMV 管理状況の解析

◎萩尾 修平¹⁾、田中 ひかる¹⁾、西野 達彦¹⁾、百田 裕香¹⁾、牛島 浩子¹⁾、松田 知子¹⁾、新開 幸夫¹⁾、松下 義照¹⁾
地方独立行政法人 佐賀県医療センター好生館¹⁾

【はじめに】サイトメガロウイルス(以下:CMV)は免疫抑制治療による再活性化が問題となり、患者のモニタリング管理が重要である。当館では CMV 抗原 C7-HRP(以下:C7HRP)を外部委託しているが、2023 年 4 月より迅速報告を目的に CMV-DNA の院内測定を開始した。今回、免疫抑制剤投与患者における CMV 管理状況を後方的に解析したので CMV-DNA 導入効果と合わせて、報告する。

【方法】2021.4.1～2025.3.31 にタクロリムス、シクロスボリン、メトレキサートを投与された 599 名を対象とし、CMV 管理状況として C7HRP、CMV-DNA 検査結果及び治療薬投与状況を解析した。対象治療薬は、館内採用のガンシクロビル、バルガンシクロビル塩酸塩とした。

【結果】対象患者 599 名中、CMV 検査人数は 170 名、検査実施率は 28.4% だった。診療科毎の検査実施率は、血液内科が 58.9%(142 名/241 名)、他診療科は 7.8%(28 名/358 名) であり、差を認めた。検査方法別では、C7HRP (2021.4.1 ～2025.3.31): 検査人数 100 名、検査件数 858 件、陽性率 12.6%、平均報告日数 2.50 日、CMV-DNA (2023.4.1 ～

2025.3.31): 検査人数 70 名、検査数 1052 件、陽性率 41.8%、平均報告日数 0.04 日であり、CMV-DNA 導入による報告日数の短縮が確認された。CMV-DNA 導入前後の治療薬投与患者数はそれぞれ 23 名、39 名、平均投与期間は 23.2 日、22.1 日であった。

【考察】CMV-DNA 院内導入により、平均報告日数は短縮した。報告日数の短縮は患者の厳密なモニタリング管理及び治療薬投与管理に寄与したと推察される。解析結果より CMV-DNA は C7HRP と比較し、陽性率も高く、早期治療介入が可能となった。一方、免疫抑制剤投与患者の CMV 検査実施率は 28.4% であり、血液内科以外の診療科は 7.8% と低いことが判明した。今後、検査実施率の向上には未実施者を拾い上げる体制の構築が必要と考える。

【まとめ】当館の CMV 管理状況を後方的に解析した。CMV-DNA の院内導入は患者のモニタリング管理及び治療薬投与管理に寄与した。診療科毎の検査実施率には差を認め、今後、検査実施率の向上が求められる。

連絡先 0952-24-2171(内線:1681)